

1 地震、津波、防災対策について

(1) 海岸防潮堤の整備

- ① 静岡県は、御前崎港に防潮堤用土砂のストックヤードを設置し、平成30年度から2カ年の計画で、首都圏の公共事業発生土を受け入れ、県西部の防潮堤整備に対して支援する計画でいる。既に磐田市は、長期計画の中で防潮堤用整備土砂の確保はできているが、施策の前倒し等においては、県が用意する土砂の積極的な活用が必要不可欠となる。静岡県が設置するストックヤードでの防潮堤用土砂の活用について、磐田市の概要と基本的な考え方、課題・問題点は。
- ② 磐田市の防潮堤整備工事について、いくつかの工区で実施しているが、これまでの進捗状況、施工工程は。
- ③ これから計画実施する防潮堤整備工事の大半は防災林箇所で、この区間のルート選定が進んでいないと聞く。県との共同施工区間でもあり、早期にルートを決定し、県との施工協議を磐田市が積極的に進めるべきと考える。現状の取り組みと考え方、今後の方向性は。

(2) 原子力災害広域避難計画

広域避難計画の策定は、平成28年9月議会の一般質問の答弁で「県と関係11市町が連携しながら、28年度末の公表に向け、策定作業を進め、計画策定後に市民等へ周知をしていく予定となっている。訓練は、県が主催する訓練に関係市町とともに参加する」とあった。その後、1年が経過し改めて伺いたい。計画策定の進捗状況と今後の予定、課題は。

(3) 防災行政ラジオ

同報無線のデジタル化工事は、平成30年度末を目途に進められ、防災行政ラジオは、アナログ端末機で、全てデジタル端末機に切り替える必要が生じる。平成27年9月議会の一般質問の答弁で「防災行政ラジオの代替案も含め検討中だが、明確な方針は決定していない」とあった。デジタル化に伴う防災行政ラジオ並びに代替策の考え方と今後の方向性は。

2 磐田市の諸課題について

(1) 伝統芸能やお祭りの継承

- ① 全国的に少子化の影響で、郷土の伝統ある行事やお祭りの伝承が大変難しくなっている。掛塚の屋台囃子においても対策を講じ、さらなる少子化の進展での方策も検討しているが、後継者不足の問題解決は大変難しい。市において、直接的、間接的に何らかの協力や支援ができるのではとの中で、伝統芸能やお祭りの継承についての基本的な考え方、ネットワークの活用や支援のあり方、課題・問題点、今後の方向性は。

(2) 工業団地の計画と企業誘致

- ① 次期工業団地について、平成28年2月議会の一般質問の答弁で「平成23年度に最優先を下野部工業団地、優先を遠州豊田PA周辺地区とし開発企業誘致を進めてきた。次の候補地は、都市計画マスタープランの見直しに合わせ、改めて市域全体で適地調査を行う。適地調査では、工業団地に限定せず、ICTを活用した新しい農業等も含めた産業適地として候補地の選定を行い、今後は都市計画マスタープラン見直しへの提案や民間活力を活用した開発手法の研究を行っていききたいと思っている」とあった。これまでの経緯を踏まえた次期工業団地の検討・調査等について、これまでの取り組み状況、今後の見通し、課題・問題点は。
- ② 都市間競争が激しい中で、新たな企業誘致の取り組みについて、現在の状況、市の戦略と他市との差別化、成果や課題・問題点は。
- ③ 竜洋地区の南部工専を含む周辺地区では、大手自動車メーカーが移転する計画を聞く。移転に伴う関連企業の動向や代替企業の誘致などの現状と対応状況、磐田市や沿岸部に及ぼす影響と対応、課題・問題点、今後の取り組みについて考えは。

(3) 官民連携によるWi-Fi環境の整備拡充

- ① 「磐田市情報化計画2017」の中で、磐田市の主導によるWi-Fi設置の整備拡充計画の基本的な考え方、前倒し施策など取り組みの現状、課題・問題点、今後の展開は。
- ② 中東遠地区において、Wi-Fiの広域的な環境整備を自治体間で協議・検討を進めるとあるが、協議・検討の現状、今後の計画、課題・問題点は。
- ③ 中心市街地の活性化のため、民間の力を借りてのWi-Fi環境の整備拡充について、商店街や商工会議所との連携・協力により、Wi-Fi環境を整備拡充してはどうか。考え方、課題・問題点、今後の展開は。併せて、平成27年度に浜松市が、中心市街地活性化のために実施した「中心市街地無料無線LAN整備事業」の磐田市版の事業を創設し、JR磐田駅周辺87ha区域内へ適用したらどうか。創設の考え方、課題・問題点、今後の展開は。